



柳瀬川沿いの台田運動公園の桜吹雪

### コロナに負けず

支部長 永代 達三(昭48政経)

コロナウイルスが流行して早三年が過ぎました。日本全体が大きく影響を受けたように、明治大学校友会多摩支部清瀬地域支部(以下校友会活動)の活動も多くの影響を受け、近年の事業計画の多くが中止を余儀なくされました。

懇談会、忘年会等の会合もコロナの蔓延状況により、直接会つて行うことが出来ず、インターネットを活用したWEB会議、定期総会などでの活動を余儀なくされたこともありました。

この様な環境の中ですが、コロナに負けず、校友会活動活性化に向け、今年度も事業計画を立て「地域貢献」「会員相互の親睦」「母校支援」を柱に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

当然、健康を第一に考え、会の運営を会員皆様のご協力を得ながら状況を勘案し、事業計画を楽しく進めていければと考えています。

なお、今年が多摩支部設立の二十周年となり様々な記念事業が行われます。清瀬地域支部としてもできる限り積極的に協力していきたいと考えております

また、会の活性化に向けて積年の課題である新たな会員の獲得、特に若手会員、女性会員の加入に向けても真摯に一歩ずつ進めていきたいと考えています。他の多摩支部の地域支部も同じ課題を抱えており、各支部も積極的にこの課題に取り組んでいます。難しい課題ではありますが、会の維持運営上避けて通れない問題です。

皆様のご協力をお願いする所存です。

## 令和四年の事業活動及び今後の活動

幹事長 清水 計明 (昭53商)

今年度から幹事長を拝命し、コロナ禍ではありましたが、令和四年度の活動を振り返ってみたいと思います。昨年の定時総会はコロナ禍により三年連続の「書面総会」となりました。

定例の月一回の懇談会は、八月、一月を除き開催し、校友会のイベント企画、ホームページの充実等話し合い、懇談会後の懇親会で親睦を深めてまいりました。

「紫紺句会」では、昨年十一月からホームページに特選句一句、本年二月から特選句一句に加え個人句一句を追掲載し充実を図りました。

また、新たに「篆刻教室」が校友の和田先生を師匠に昨年七月発足し、月一回校友五人と地域の方々和気あいあいと「篆刻を楽しむ」をテーマに石を掘っております。

更に、十一月には、「第十回多摩湖ウォーキング」。

生憎、小雨模様でしたが総勢十七人全員が晩秋の多摩湖を無事完歩しました。十二月には、「ラグビー明早戦観戦」清瀬地域支部から校友三人が参加し、母校の勝利に貢献しました。一月には、「野鳥観察会」が開催され、主催の「清瀬の自然を守る会」から二十人、校友から四人、校友の呼びかけにより一般参加の三人が、青空のもと二十六種類の野鳥を確認しました。

そして、本年五月二十八日(日)には、清瀬地域支部の定時総会を予定しております。三年ぶりの開催ですので多くの方々のご出席をお待ちしております。

「地域密着型校友会」を更に充実してまいりたいと思います。ご協力、ご支援の程宜しくお願いを申し上げます。

## エッセイふるさとシリーズ ⑫

### 我が故郷「東京都新宿区四谷」

福島 寛 (昭37政経)

#### ふるさとの四谷は如何に春の雪

私のふるさととは東京都新宿区の四谷四丁目です。丁度新宿駅と四ツ谷駅の中間位に位置しています。当時の新宿通りには、新宿から永代橋行きの都電が通っていましたが、今は東京メトロ丸ノ内線が走っています。私の家は「福島洋品店」という店を営んでおり、昭和三十九年の東京オリンピック開催の際には、代々木会場から近いこともあり、よく外国の選手が買いに来てくれたことを思い出します。私の青春時代のフランチャイズは、新宿区歌舞伎町です。今でも灯の消える時がない街と言われていますが、当時から華やかさ一杯でした。時間のある時は、新宿御苑、花園神社、東映映画館、伊勢丹、紀伊國屋書店等の前を通って歌舞伎町に遊びに行ったものです。それでは四谷周辺の名所をご案内します。

近くには明治神宮外苑、昔の花街で下町情緒の残る荒木町界隈、四谷怪談で有名なお岩の墓(於岩稲荷田宮神社)、上智大学、市ヶ谷駐屯地等々取り上げればキリがありませんが、今回はその一部です。

#### 新宿御苑

新宿御苑は江戸時代に徳川家康の家臣、内藤清成が賜った大名屋敷がルーツと言われています。明治維新後、皇室庭園を経て昭和二十四年に国民公園として一般に公開されました。日本における数少ない風景式庭園の名



作です。一年間に二六万人の方が訪れています。

#### 須賀神社

須賀神社は江戸時代初期から四谷の地に鎮座する四谷十八か町の鎮守さまです。毎年六月に行われる御祭礼は、古くは四谷の「天王祭り」と呼ばれ、江戸の五大祭りの一つでした。境内には天保七(一八三六)年に描かれた歌仙絵のレプリカが飾られています。



#### 花園神社

花園神社は古来より新宿の総鎮守として新宿の発展を見守って来た神社です。名前の由来は、たくさんのお花が咲き乱れていたことから名付けられたそうです。一九六七年から唐十郎の状況劇場の「紅アント」公演が行われていることでも有名です。



#### 四谷おもちゃ美術館

四谷おもちゃ美術館は、私の母校、四谷第四小学校が移転した後の建物を再生活用しています。「おもちゃの力で社会の笑顔を増やす」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで、幅広い年代の方が楽しめるミュージアムです。また、「手づくりおもちゃ工房」は毎日開催しております。



関根 文子 (平4短法)

私の故郷は清瀬市です。(出生時はまだ北多摩郡清瀬町でしたが) これまで清瀬市の中を転々と移り住んできました。最初は下宿に住んでいました。その頃は畑が多く殺風景でしたが、旭ヶ丘の商店街は賑やかで特に団地センターの商店街は母とよく買い物に行きました。その後竹丘団地へ引っ越しして小二まで第二小学校へ通っていました。現在、団地は建て替えられています。以前は

二階建てが五軒ほど



下宿柳瀬川通り (昭和48年頃)



台田団地 (昭和56年頃)

繋がったような住居で、同じ年頃の友達も沢山いて外で遊ぶまでよく遊んでいました。保育園のお散歩で三菱グラウンド(現在はコスモザパークス)や旧東京病院の庭へ行きました。三菱グラウンドは特別に入れてもらった記憶があります。正門から入るとよく整備されている庭園があり、その奥に競技場がありました。平日のせいか「誰もいない」場所に子供ながら「こ

は何なのだろう」と不思議に思えました。

小三になったときに台田団地に引っ越し清瀬小学校へ転校しました。初めの頃は同じ建物がいくつも続き迷路みたいで、遊んだ帰りは友達に家まで送ってもらいました。柳瀬川周辺は今ではお花見やバーベキューを楽しむような場所になりましたが、以前、道路側は金網のフェンスで遮られ、その向こうに草むらの川原があるだけでした。

その後は長く台田に住んでいて、いつも通勤・通学どこへ行くにも自転車で急な坂道を上がらなければいけないのが辛くて「坂の上の住民になりたい」とずっと思っていました。

そういえば、職場で昔駅の近くに「ニチイ」(後のサテイ)があったという話になり、「ニチイ」はその前は「尾張屋」だったよね、などとウツカリ話してあまり若いことがばれてしまいました。

都内の会社に就職してから数年後にそちらの方で暮らしたものの、結局、清瀬へ戻ってきて清瀬高校付近のマンションで一人暮らしをするようになりました。念願の「坂の上の住民」になりました。坂は無いし、駅は近しい快適でした。その後結婚して暫くは主人とそこで住んでいました。子供が二人生まれ、近所の保育園へ通っていました。成長とともに手狭になってきたので長女が小学校へ入学するタイミングでグリーンタウン清戸(中清戸)へ引っ越しして現在に至っています。

現在は下清戸にある会社で働いており、これで私が制覇していないのは野塩方面かな、と思っています。今のところ引っ越しの予定はありません。



関東大学ラグビー対抗明早戦観戦記

気賀沢 陽一(昭60商)

令和四年十二月四日(日)永代支部長、清水幹事長と有志三名で新国立競技場へ観戦応援して参りました。チケットのエントリーはさせていただきましたけれども、まさか手に入るとは思っておりませんでしたので、当日までとても楽しみにしておりました。私自身は十年ぶりの観戦でした。

新国立競技場の座席は一階の正面で両チームの動きやチアリーダーもよく見えて私が過去に観戦した中で一番でした。とても気持ちの良い気候の中十四時キックオフ、早稲田大学に一度もリードを許すことなく三十五対二十一で完勝して気分は最高でした。やはり勝つのと敗ける



右から永代さん、清水さん、気賀沢さん

のでは気分は大違いです。明治大学はフォワード中心だけではなくバックスも絡めた展開ラグビーをしておりました。またゴールキックもほとんど決めてリズムの良い試合でした。戦前に対抗戦の優勝は逃しておりました

が、来る大学選手権でライバルの帝京大学に是非雪辱して優勝して欲しいと思えました。新国立競技場も初めて目の当たりにすることができ勉強になりました。「頑張る力」をもらった最高の一日「ブラボー」でした。

## 多摩湖ウォーキングを実施

永代 達二(昭48政経)

晩秋の十一月二十六日(土)清瀬支部恒例の「多摩湖ウォーキング」を実施しました。当日は時々小雨の降る生憎の天気でしたが、日差しもあり、多摩湖周辺の紅葉は近年になく鮮やかで自然を十分楽しみながらの六キロコースとなり全員無事完歩することが出来ました。なお、三名参加者の方は引き続き多摩湖一周の十二キロコースに参加されました。参加者の内訳は男性八名女性九名総勢十七名でした。九時四十五分西武球場駅スタートし十二時に帰ってきました。



記念写真(中間地点の時計台)

反省会は希望者七名で清瀬駅前「松庵」で楽しく開催しました。反省会には初代支部長の粕谷様も参加され

楽しいひと時を過ごすことになりました。

次年度には新たなコースの検討を含め実施する予定です。参加された皆様によりお礼申し上げます。



## 校友訪問③

カフェおぞら

粕川 偉三男(昭48政経)

昨年十月、清瀬市障害福祉センター内にオープンされた「カフェおぞら」の中心メンバーとして活躍の校友の丸山さんをお尋ねしてきました。一般市民、子ども、学生、市内在住外国人が一緒に集まれる開かれた空間となるよう適時催事を企画し助け合い、寄り添い、気遣い、集うみんなの「カフェおぞら」を理念とし、オープンに漕ぎつけたとの事です。カレー等軽食が主体ですが国際交流会に参加されているメンバーの世界各国の自慢料理を順次加えてゆくと張り切っておられます。毎月第三金曜日に開かれ、クチコミで評判が広がり、一月に伺った時には順番待ちのお客様がいらっしゃいました。受付には校友の粕谷菜吾さんが活躍されていました。今後益々発展されることをお祈りしております。



丸山さんと仲間達

## 三年ぶりの野鳥観察会

中村 曠(昭36政経)

金山地区野鳥観察会が三年ぶりに令和五年一月二十九日に開催された。快晴に恵まれ、早朝集合にも関わらず多くの参加者が金山緑地公園に集まっていた。校友会から四名、多摩湖ウォーキング常連市民参加者の三名が加わり七名、全体で約二十名の参加でした。受付で野鳥名チェックシートを受け取り、双眼鏡片手に準備完了。

過去の観察会の野鳥確認数は三十種前後、二〇一九年には三十七種であった。年々、渡り鳥の飛来数は減少傾向にあるという。二班に分かれ出発。緑地公園の池にはカルガモが歓迎してくれた。林道の入り口に大きな枯木が一本あり、「コゲラの創った穴があったので伐採せずに残した」の説明に野鳥の保護活動の一環と感銘した。

また、林道の所々に樹木に名を付した名札が着けられていて散策する人達の関心をそそる。

これも「清瀬の自然を守る会」の活動と同会スタッフの校友福本さんから説明を受けた。

林道を抜け、柳瀬川対岸の石壁に白ペンキを塗ったような跡(糞)を「カワセミの居所です」との声に双眼鏡を向けるとカワセミ



野鳥観察会参加のみなさん

発見。更に進むと同じような場所があり、「カワセミは約三〇〇メートルの範囲を縄張りとしており、先ほど見た同じ鳥でしょう」とのこと。

金山緑地公園から調節池へ、池にはダイサギ、コサギ、カルガモ、カイツブリが、北側の湿地帯ではスタツフの「モズがいた！あそこに・・」そこにシジュウカラが来て水を飲んでいる」双眼鏡では追いつけずスタツフのフィールドスコープで交代に見せてもらった。五年ぶりにイカルを発見、また鳥の群れに首のあたりが白い珍しいカワラヒワも見ることができた。

柳瀬川河岸で参加者全員により観察した鳥をチェック、その結果、探鳥数は二十六種でした。約三時間の探鳥会はここで解散。

校友会参加者は清瀬駅南口の「蕎麦処松庵」でランチ反省会。多摩湖ウォーキング参加者のNさんが清水幹事長の所属野球チーム「清瀬グランパ」の先輩チームメイトであったことなど親睦を深める反省会となりました。



野鳥は・・(金山緑地公園)

「昆虫観察会」など多くのイベントを実施しています。コロナ禍の影響で中止が続いていましたが、今年の実施期待できそうです。清瀬の美しい自然に触れるイベントの参加をお勧めします。

### 【特別寄稿】

#### 大橋治三先生のこと(二)

佐藤 房夫(昭39工)

これまでの人生において、様々な先生との出会いがありました。中学や、高校そして大学の恩師、社会人になってからも様々な分野での先生との出会いがありました。今回は私の趣味の写真を通じて出会った先生について紹介します。先生の生き方が実に波乱万丈だからです。

大橋治三(はるぞう)の名前を存じている方はいないと思います。先生は日本庭園写真家の第一人者です。

ここで先生の生い立ちについて紹介します。昭和二年大阪市の下町で、毛筆づくりの職人の家で生まれました。

一人っ子で跡継ぎとして育てられたが、少年は当時はやりの軍国青年に憧れ、両親の反対を押し切り海軍の衛生兵として入隊した。傷病兵の看護を通し、戦争の悲惨さ

や死に直面する恐怖と絶望、人間の弱みと強みを間近に体験した。彼の人間

洞察力はこの時の体験によるものである。敗戦後、筆職人の跡取り息子に戻ったが、このまま職人で一生を終わることにかすかな不安と不満があった。そんな時、偶然

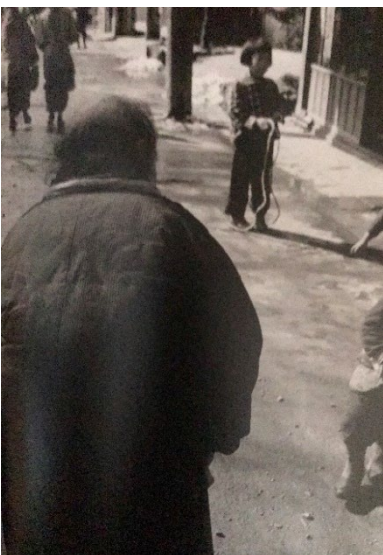
親父のカメラをみ



子供達(大橋治三撮影)

つけた。家業の手伝いはほどほどに、今度は親父のライカを持ち出して写真に熱中した。写真クラブに入り、敗戦後の大阪の風景やスナップを撮りまくった。ライカ一台で家一軒買えた時代であった。毛筆業でもかなりの収入があったと思われる。しかし当時写真は金持ちの道楽といわれ、両親もさぞ心配したであろう。家業を継がずプロの写真家になりたいと言って両親から猛反対されたのもこの頃であった。

昭和二十八年美術団体二科会が写真部を創設した。世話人は秋山正太郎、林忠彦、大竹省三、植田正治、緑川洋一など写真界の中心人物であった。アマチュア写真家の登竜門となり、年一回の応募に、全国から多数の写真愛好家が応募した。二科会に入選することがアマチュア写真家の垂涎的であった。昭和三十年第三回展において大橋氏は最高の二科賞・特選を獲得した。続く第四回展「二科賞・奨励賞」を受賞した。これによりプロカメラマンの夢がさらに高まり、ついに家業はおろか妻子と両親を残し、家出を決行し上京した。しかしプロの道は険しく、当時プロとして生活できるのはほんの一握りで



背中(大橋治三撮影)

あった。活躍の場は週刊誌の表紙やグラビアそして企業の広告写真等の一部であった。フリーカメラマンとして生活のために、依頼された仕事は全て引き受け、がむしやりに働いた。後に、軍隊に入ったことと家出をしたことが最大の親不孝であったと述懐している。重森三玲氏に出会ったのはその頃であった。この出会いが大橋治三の将来を決定的にしたのである。

(次号「大橋治三先生のこと(二)」に続きます)

### フォト・エッセイシリーズ ⑩

#### 谷口ジローが歩いた清瀬の道

粕川 偉三男 (昭48政経)

郷土博物館で「谷口ジローと清瀬」が開催されました。手塚治虫と並び世界的に著名な漫画家である事、清瀬に在住していた事等はお恥ずかしながら全く知りませんでした。数年前の朝刊の多摩版に掲載されて初めて知



「谷口ジローと清瀬」入りロパネル

た次第です。以来数冊の著作を購入し谷口ワールドを楽しんでいます。展覧会では受付ボランティアを経験し、より一層谷口ワールドを堪能しました。展覧会の図録に「孤独のグルメ」で放映された「み



「孤独のグルメ」で放映された「みゆき食堂」

ゆき食堂」へはスタッフと良く行っていたこと。お酒が強く、仕事が終わり池袋に出掛けて朝帰りをしたともありました。是枝監督は「清瀬」の「取るに足りない」もの前に立ち止まり、愛しむ様に描写した心の変化を問う

ています。

また、郷土博物館で個展を開催し、「清瀬」を描いた色鉛筆画家林亮太にも通ずるものを感じました。

決して「グルメ雑誌」や「街歩き雑誌」あるいは「住みたいランキング」等には取り上げられない「清瀬」ですが芸術家の心を揺さぶる何か「清瀬」にはあるのではないかと。

「櫻の木」の原作者の内海隆一郎は「清瀬」を舞台にした「櫻通りの人々」を著し、山本陽子主演のNHKの連続ドラマが放映されました。

奇しくも谷口ジローと私は誕生日が同じで（八月十四日）、私が二年後輩となります。谷口ジローが描いた「清瀬」をカメラ片手に散策してゆくのを楽しみの一つになりました。

### 石田波郷俳句大会報告

梶谷 榮吾 (昭46法)

第十四回石田波郷俳句大会は、令和四年十一月二十七日(日)に新宮長川戸淳一郎氏(弁護士)の下で無事に開催することができました。

第十四回大会では、一般の部を休止し、ジュニアの部と新人賞の部の表彰という新たな内容での大会となりました。

紫紺句会会員等校友は、五〇七月の市内小中学校の俳句出前授業や応募の俳句の入力作業に協力し、表彰式当日の運営においても例年どおり会場係に協力しました。大会の成功に我が校友会の協力は大きかったと思っています。

今年の第十五回大会という記念すべき大会に向けて、実行委員会は活動を開始しています。新たに校友の関根文子さんが実行委員会に加わり、我が校友会からは実行委員会に大山副会長、



第14回大会ジュニアの部の表彰式会場

実行委員に関根さんと梶谷が参加します。昨年同様、俳句出前授業など校友会の皆さんにはご協力をお願いすることになると思います。よろしくお願ひします。(写真庄村氏提供) 以下は、第十五回石田波郷俳句大会の予定です。今年もご支援をよろしくお願ひします。

日時 十一月二十六日(日)  
午前 ジュニアの部の表彰式  
午後 講演及び新人賞の表彰式  
場所 アミューホール

### 紫紺句会活動報告

梶谷 榮吾(昭46法)

新型コロナ感染症により日常の生活が変わってから三年が経過しました。マスクの手放せない状況が続き、会場が使えず句会を開催できないときもあり、波乱の三年間だったと思います。コロナ不安を感じ、退会した会員もいました。

そんな中で紫紺句会は三月に第九十一回句会を開催しました。嬉しいことに二月より校友の杉山陽一さん(昭43経営)が新会員になりました。これで会員は十四名、コロナ禍の前に比べると句会会員は減っていますが、現在いつも十人以上の参加によって開催できていることは嬉しい限りです。

校友大山恭子さん(俳号細見道子さん)の献身的なご指導を受けながら和気藹々で句会を楽しんでいます。まもなく五月八日に新型コロナが今の感染症法の二類相当から季節性インフルエンザなどと同じ五類に移行する予定のようです。これを機に委縮しがちだった句会がさらに活性化することを願います。

また、昨年十一月より校友会清瀬地域支部のホームページに毎月の句会の特選句・入選句を掲載していますのでご覧ください。

二〇一四年六月八日に発足してからはほぼ九年経過した句会ですが、第百回記念句会(来年一月)や十周年記念句会(来年六月)も近づいてきました。みんなで元気に

お祝いの会を開きたいですね。紫紺句会が今後益々盛云であることを願っています。

### 【紫紺俳壇】



#### 紫紺句会指導

俳句結社「隗」 主宰 細見 道子

星に祈ることの数々春立つ夜

#### 紫紺句会

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 花冷えや見飽きた傷の疼く夕   | 穴田 作道 |
| 元日の孫子あふるる我家かな   | 永代 達三 |
| 波を蹴る鯢の飛沫や冬夕焼    | 粕川偉三男 |
| 兔さん月から出たらどこへ行く  | 粕谷彌太郎 |
| 校門の母の袂や桜花       | 小林 信夫 |
| 校友の君は旅立つ冬の星     | 佐藤 房夫 |
| さつま路や母のルーツの初詣   | 島崎 光  |
| 研ぎたてて柳刃ひくや桜鯛    | 杉山 陽一 |
| み仏となりて降る雪那須の森   | 中西 宣二 |
| 米を研ぐ指に優しき春の水    | 中村 曠  |
| 百年の師伝マンクラ寒ざらへ   | 西尾 修一 |
| 春寒や未だ戦禍の無辜の民    | 梶谷 榮吾 |
| 蒼穹に溶け込むごとく千切れ風  | 村野 良明 |
| 去年今年トイレの神に会ひにゆく | 山尾久美子 |

チャレンジ!



詰将棋(五手詰) \*解答は次頁

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲		▲						
▲								
	▲							
▲	▲							

▲持ち駒 ▲飛

### 第十二回清瀬地域支部定時総会

- ・日時 五月二十八日(日)
- ・総会 午後一時半から
- ・場所 アミュー六階
- ・懇親会 総会終了後 午後三時〜五時
- ・場所 はなの舞(清瀬駅南口)
- ・会費 三千円
- ・三年ぶりの対面式総会です!
- ・多くの会員の参加をお願いします!



紫紺句会（会員募集中！ 俳句を楽しみましょう！）

・開催日 毎月第二金曜日 午後一時三十分～

・会場 アミュー六階

篆刻教室（会員募集中！ 初めての方でも大丈夫！）

・開催日 毎月第三水曜日 午前十時～

・会場 アミュー六階予定

◎お問い合わせは「清瀬紫紺ネット」でお願いします

訃報

故 鬼島和夫様（昭38政経）

令和四年九月にご逝去されました

謹んで哀悼の意を表します

故 福田尚也様（昭39商）

令和四年十一月二十二日にご逝去されました

当会の幹事 会計監査として支部発展に貢献されました

ご生前に受けたご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します

故 村越勝重様（昭50工）

令和五年一月二十九日にご逝去されました

当会の会報の普及発展にご協力いただきました

ご生前に受けたご恩を偲び哀悼の意を表します

篆刻を楽しみま書



「てんこく」は書道芸術の一分野です  
頭と手先、フル回転の楽しみ！

「梅理庵篆刻教室（和田素洞）」

『教室』 清瀬駅南口すぐ

『日時』 毎月中旬の水曜日午前

和田 寿文（S49法）

bairian510195@gmail.com

042-495-3349

初心者大歓迎、  
お気軽にお問合せを

NPO法人



健康遊技たんぽぽ

○健康麻雀

午前の部 10:00～13:00 500円

午後の部 13:30～16:30 500円

一日の部 10:00～16:30 1,000円

\*入会金…1,000円

\*年会費…2,000円

☆セットのお客さま大歓迎（要予約）

清瀬駅南口から徒歩1分

清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階

☎042-495-7708

詰将棋解答

●9三飛 〇同 金  
●同角成 〇同 玉  
●8三金 まで5手詰



◎清瀬地域支部の情報は

校友会清瀬のホームページ

<https://meiji-3.jimdofree.com/>



◎「会報」にご投稿を！

「趣味」「学生時代」「我が故郷」

ご応募は紫紺ネットで！！

清瀬紫紺ネット

kiyose-event@meiji-tama.net

POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 **マイテック**

代表取締役 岡崎 満

本店

〒113-0033 文京区本郷2-40-7  
YG30ビル 6F

Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763

URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

連絡先

〒204-0022 清瀬市松山1-27-1

Tel 042-492-0611 Fax 042-495-8357

特別顧問 粕谷彌太郎  
(S28 政経)



ポスター  
パンフレット  
会誌・自分誌など



環境にやさしい

**(有)スガハラ印刷**

〒204-0022

東京都清瀬市松山 2-7-14

TEL 042-492-2210

FAX 042-491-8118

E-mail :

sugahara@sugahara-p.co.jp